

令和3年度 第1回富良野市総合教育会議 会議録

開催年月日	令和3年7月5日（月） 開会：午後1時26分 閉会：午後2時18分	
開催場所	富良野市役所 第3 会議室	
出席者	市長 北 猛 俊 教育長 近 内 栄 一 教育委員 宮 本 鎮 栄 教育委員 津 山 正 樹 教育委員 菅 野 義 則 教育委員 渡 邊 啓 子	
欠席者	なし	
事務局等出席者	富良野市教育委員会 教育部長 亀 淵 雅 彦 学校教育課長 佐 藤 清 理 学校教育課主幹 松 原 光 利 社会教育課長 高 田 賢 司 こども未来課長 佐 藤 保 学校教育課管理係長 石 坂 征 和	富良野市 副市長 石 井 隆 総務部長 稲 葉 武 則 企画振興課長 関 沢 博 行
議 題	1) 富良野市教育に関する大綱の見直しについて 2) 布礼別小学校の閉校について 3) その他	
傍 聴 人	なし	
報 道 機 関	なし	

議事の経過

開会 午後1時26分

亀淵教育部長

ただ今より令和3年度第1回富良野市総合教育会議を開会いたします。本会議は、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本市教育の課題及びめざす姿等を共有しながら、同じ方向性のもと連携して効果的に教育行政を推進していくことを目的としております。富良野市総合教育会議設置要綱に基づき、議事録は公開することとなっております。

開会にあたりまして北市長よりご挨拶をお願いいたします。

北市長

改めましてみなさんこんにちは。令和3年度の富良野市総合教育会議ということで、教育委員の皆さま方にはお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

います。連休以降といたしますか、コロナの関係につきましては、それ以前からも同じと思いますが、子どもたちの教育環境あるいは教育の機会をどのように維持・保全していくかということで、ご苦心していると思っております。色々な取り組みや障がいになる部分はあると思いますが、皆さま方のご尽力のおかげも含め、関係者の方々の努力も含め合わせて、子どもたちの学校環境については維持できていると感じています。そうしたご尽力にこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。また、過日樹海小学校、樹海中学校、山部小学校と学校訪問をご一緒させていただきました。学校現場を見る機会は、あまり多いとは言えませんが、大変勉強になりましたし、以前とは違った新たな課題も学校の中では抱えてきていると実感しました。コロナの問題を含めて色々な障がいがあるわけですが、子どもたちの健やかな成長を願いながら変わらぬご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

今日の総合教育会議であります。富良野市の教育に関する大綱の見直しと併せて布礼別小学校の廃校について、意見交換をさせていただきます。少子化ということで、子どもたちの数が減る実態であります。それに合わせて前段申し上げた子どもたちの教育環境を守っていくということを新しい形の中で、取り組みを進めて行かなければならないということを改めて感じています。ぜひ、今日の会議を通じて忌憚のない意見をいただき、さらに子どもたちの健やかな健康を守っていくということで、次の道が拓けると思っておりますので、ご協力をお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

亀淵教育部長

ありがとうございました。続きまして、近内教育長よりご挨拶をお願いいたします。

近内教育長

総合教育会議開催にあたりまして、私からも一言ご挨拶させていただきます。新型コロナウイルス感染症の終息が、まだまだ先という中で特にこの1年半の間では、学校と家庭、家庭と地域、家族間という絆をどのように維持していくことが大きな課題となっていると思います。どの地域においても人口減少、少子高齢化ということで、地域コミュニティが衰退してきており、家庭においても少子化の中で核家族化あるいは就学形態により色々ありますが、ひとり親世帯といった比率も少しずつ高まっている中で、これまでの家庭の教育力のひとつであったおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、それから兄弟姉妹から子育てについてアドバイスを受けることが難しい状況になっています。保護者の孤立化と言われてますが、そういった中で児童虐待、若者のひきこもり、不登校など色々な課題、経済格差といった部分での経済的支援も考えなければならないということで、なんらかの支援を要する家庭が増えてきているような気がします。これらは、家庭の教育力の低下というよりは、家庭教育がしづらい世の中になっているのかという感じがします。これまで社会教育の中で、家庭教育を行ってききましたが、家庭教育支援という部分を考えていく状況と思っております。今年度から教育委員会でも富良野市教育振興基本計画を策定しました。そういった視点から学校教育、社会教育そして児童福祉を一体化しながら進めて行くということですが、その中でも大切な

のが、社会セフティネットワークづくりに向けて、地域の児童民生委員や人権擁護委員、民間の福祉団体と行政がしっかり結びつきながら家庭を支援していく視点も必要と考えています。

本日は教育に関する大綱の策定という議題ですが、様々な観点から色々な立場の方々子どもたちのためにオール富良野で育んで行ける環境づくりについてご意見いただければと思います、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

亀淵教育部長

ありがとうございました。これからは北市長の進行で進めて参りますのでよろしくお願いいたします。

北市長

それでは、議題に沿って進めさせていただきます。

議題の1点目「富良野市教育に関する大綱の見直しについて」でございますが、本市教育に関する大綱につきましては、今年度より始まります第6次総合計画及び第1次富良野市教育振興基本計画、また昨年度より富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画がスタートしております。本市の特色ある教育、子育て施設が進められていることから、これらの計画が大綱と位置づけということで提案させていただきます。

内容につきまして、事務局より説明をお願いします。

亀淵教育部長

資料1に基づいて、説明させていただきます。富良野市教育に関する大綱（案）です。まず、大綱の策定について、本市では、本年度令和3年度より、これからの10年のまちづくりを見据えた「第6次総合計画」がスタートしました。少子高齢化・人口減少、ICTの進歩が、私たちの想像を超えるスピードで変化していることから、新しい時代に向けて、人口増加を前提としたまちづくりではなく、既存資源を有効に活用しながら個性や魅力を磨き上げ、暮らしの質と活力を高めるまちづくりへの転換が必要になっています。第6次総合計画では、まちづくりのスローガンとして、「美しい」その先へ。WA!がまち、ふらの」を掲げています。市民の価値観や課題が多様化する中で、地域の活力を維持・向上させ、次世代に元気な、魅力ある「富良野」を引き継いでいくためには、市民と行政が共に考え、アイデアを出し合い、共に創っていく、「共創」によるまちづくりを様々な主体と取り組んで行く必要があるため、市民と行政が一緒になって、「健康で生きがいを感じ、幸せを実感できるまちづくり」を進めて行きます。この第6次総合計画を基盤として、現在の予測不可能な変化の激しい時代を生き抜くためには、学校と社会が連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を育む教育環境づくりが重要であるため、令和3年度新たな教育の方向性を示す指針として、学校教育と社会教育、関連する児童福祉の施策を一体的に推進するため「第1次富良野市教育振興基本計画」、また令和2年度より「富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画」がスタートし、本市の特色ある教育の実現に取り組んでいます。このため、本市の教育に関する大綱については、先に掲げた各種計画をもって新たな大綱と位置付

けてまいります。

大綱のめざす姿につきましては、今日の変化の激しい時代の中で、これからの教育は、自分の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、新たな価値を創造し、持続可能な社会の創り手となることができるような資質・能力を育成することが求められていることから、次代を担う人材の育成を生涯教育の実現に向けた環境づくり、そして、子どもたちの発達段階や特性に応じた教育・保育の充実を図り、誰ひとり取り残さない、切れ目のない富良野ならではの子育て環境づくりを進めてまいります。

次に大綱の期間ですが、本市の教育に関する大綱については、令和3年度からスタートした第6次富良野市総合計画基本構想及び富良野市教育振興基本計画との整合性を図りながら、令和3年度から令和7年度までの5年間といたします。

大綱の基本構想、重点施策、各種施策につきましては、第6次富良野市総合計画では、教育関係の基盤となる、基本構想コンセプト「輝く。つながり合う。ひとのWA!」に基づき、3つの重点施策と着実に取り組む7つの基本施策があり、それらを具体的に推進するため、第1次富良野市教育振興基本計画、富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画の各種施策を進めてまいります。スローガン、コンセプト、重点施策、7つの基本施策、具体的に推進するための施策として、第1次富良野市教育振興基本計画、富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画ということで組み立てております。

次にその中で、第1次富良野市教育振興基本計画の具体的な取り組みとして、7つの政策目標を掲げています。個々の政策目標に伴いまして、基本施策を掲げ、その中で実践項目を記載しております。

1点目の主体的な学びを育てる「知育の木」では、確かな学力を育む教育の推進、社会のグローバル化に対応する教育の推進、質の高い幼児教育の推進、一人一人のニーズに対応した取組の充実、2点目の政策目標として、自主自立の心を育てる「情意の木」では、豊かな心を育む教育の推進、いじめや不登校児童生徒への対応、3点目の政策目標として、恵まれた環境と食で育てる「健康の木」では、体験活動の推進、食育と学校給食の充実、健やかな身体を育む教育の推進、4点目の政策目標として、原点を見つめ未来への輪を広げる「学びの大地」として、学校段階間の円滑な接続、家庭・地域が一体となった学校運営の推進、防災・安全教育の充実、5点目としまして、家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協議の推進、6点目としましては、人々の暮らしの向上と人生100年時代を見据えた生涯学習の推進、7点目としましては、文化伝承活動と社会教育施設整備の推進を掲げています。続きまして子育て関係です。第2期子ども・子育て支援事業計画におきましては、基本方針としまして4点掲げ、具体的な施策を上げています。1点目としましては、安心して妊娠・出産できる環境づくり、2点目としましては、乳幼児期における健やかな育ちへの支援、3点目としましては、自立や社会参加に向けた適切な支援の提供、4点目としましては、子育てを支える富良野市の環境づくりを掲げています。最後に、総合計画の重点施策、基本施策に対応するため、第1次富良野市教育振興基本計画、第2期子ども・子育て支援事業計画がそれぞれ連携してい

き、富良野としての教育、子育てを進めて行きたいと考えています。これをもって教育の大綱に代えさせていただきたいと思っています。

以上です。

北市長

ただいまの説明があった通り、富良野市の最上位計画であります第6次総合計画を基にしながら、第1次富良野市教育振興基本計画、そして富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画、これらの既存の計画を大綱と位置付けることの提案でしたが、この件につきましてご意見はありませんか。

宮本委員

このとおりで良いと思います。ただ、背景にある社会情勢とかを我々がしっかり押さえて認識することが重要だと思います。2015年の夏に中央教育審議会の教育課程分科会の特別分科会の中で、教育の論点整理が出されて、社会に開かれた教育課程という文言が出てきました。社会に開かれた教育課程とは何のかという話ですが、学校だけでは子どもの教育は出来ないことだと思います。子どもたちの教育は、学校だけではなくて地域と学校が車の両輪のように子どもの育成に力を注ぐことが、中教審の思惑として2015年に出されました。このようなことが踏まえられているため、大綱については賛成です。地域と学校が車の両輪のように力を合わせて行かないとこの社会の持続性が成り立たないし、富良野市の持続性も高めることにはならないと思います。その背景には、急激に進化する人工知能がもたらす知識社会とそれに対応する社会の裏を返すと格差が広がり、IT化の裏返しとして格差のある社会での論点整理として、社会に開かれた教育課程として出され、学校だけでは子どもを育てることが完結できないため、地域社会の力を借りなければならないということで、コミュニティ・スクールでの取組となると思います。もう一つ体験と言語というのが、今回の学習指導要領の改訂の中で一番大きなことで、体験のことでいうと、コミュニティ・スクールで地域社会とともに子どもたちの体験を保障していく。言語でいうと、アクティブラーニングとされていますが、自分が置かれた状況をしっかり認識して、それを他者にしっかり説明できること、例えば自分が苦しい状況であれば、他社の協力を借りながらそこから抜け出していく力の基本となるのがコミュニケーションで、体験と言語ということが出てきていると思います。そういうことが全体的に大綱に踏まえられていると思います。子どもたちの教育が変わっていき、子どもたちの教育を変えることで、地域も変わっていき、子どもたちが地域社会でも学んでこれからの社会で自分の人生を切り拓いていくことだと思います。それをみんなで支えていくことが今回の学習指導要領の改訂の根底で、それを踏まえて大変な社会を生きていく子どもたちに対して、我々大人たちが、学校が子どもたちの育ちを支えて行くことだと思います。

北市長

学校と家庭が連携を中心にして、その連携をどう保っていくというご意見でしたが、その他ご意見ございますか。

菅野委員

宮本委員と重複する部分がありますが、教育を数字的に追うだけだったら民間の教育機関にまかせれば良い大学や高校にも行くことができると思いますが、そうではないところに学校の良さがあり、何年も教育委員をやって学校訪問もしています。先日の学校訪問でも全ての教育の問題解決を学校に全て求めていくことは限界があり、先生方も時間外で一生懸命やっている姿を見ると過酷と感じます。宮本委員が言っていた、子どもたちが社会で学んでいくことは大切なことで、良い例が暮らしステーションの未来ラボの取組が年齢を問わず幼い子からお年寄りまで一緒になって課題について考え、色々な行事を創り上げいく過程が非常に素晴らしいと思います。今子どもたちも18歳で選挙権があり、子どもたちや我々も色々な組織に招き入れて色々な問題やまちで抱えている問題をその子どもたちを含めて解決する方向に話し合う場所が多くあった方が良いと思います。18歳の時から自分たちの問題は行政任せではなく、自分たちで解決し、それができるという自信をもっていただければ、10年後20年後大人になった時に、例えば議会の活性化に繋がり、富良野の色々な地域の問題を解決でき、自信がもてる教育行い、富良野から高校、大学を出て日本や世界に向く自信につながる土台を富良野の中で育て行くのが非常に大事だと思います。

北市長

他にご意見ありますか。

渡邊委員

教育委員になるまで教育振興基本計画とか、子ども・子育て支援事業計画などをまったく見たことも、聞いたこともない状態だったので、今子育てしている世代も知らない人が多いと思います。もう少しわかりやすいというか、子育て世代に広く伝えれば良いと思います。富良野市はこういう方向で進めるということをわかりやすく伝えてほしいと思います。

北市長

今のそれぞれの計画をわかりやすく言えば、事務局としてはどう取り組んでいますか。

亀淵教育部長

具体的には保護者の方々に計画をわかりやすく説明する機会はありません。市民の方々にはホームページで示しているのが実態であります。渡邊委員からの意見は、富良野市の子育て世代について、計画というではなくて、切れ目のないライフステージごとの施策・支援策を、妊娠から小・中・高校生までの子育てインデックスという形で体系づけた表し方もホームページにて掲載しています。公式LINEアカウントが動き出す中で、こども未来課の中ではボシモという子育てアプリでも広く子育て世代へ情報提供し充実させていきたいと思っています。

北市長

宮本委員からあったご意見の中で、学校と家庭を連携していくためには、2点あった1つの言語ということで、お互いの意思が通じ合うことが大事なこととなってきますので、それぞれの計画が子育てをされている家庭にわかりやすく伝わる工夫が大切だと思いますので、改善をお願いします。

他にご意見ありますか。

津山委員

大綱については賛成です。富良野市第6次総合計画を見ましたが、すごくわかりやすく、おもしろくて感動しました。この中で、大綱にもありますが富良野市のつながりを増やせる仕組みづくりで、関係人口という言葉がありこれに興味を持ちました。富良野のファンが沢山いて、毎年何回も富良野を訪れ色々なことに協力してくれる応援団がいます。私の子どもたちも東京に就職し帰ってきませんが、いつも富良野ことを気にしています。何かできることはないかと気にしています。そういった人たちを定住人口ではなく、応援してくれる仲間に声掛けをして意見をいただくことが良いことだと思いました。

北市長

ありがとうございます。教育長いかがですか。

近内教育長

最初に宮本委員が言っていた社会に開かれた学校づくりというものですが、最近考えていますが、例えば学校と共にある地域づくりの中で地域でのイベントなどがやりにくい状況で、学校を舞台にして2年ほど前に行った東小学校での町内会が集まって盆踊りを行いました。地域の人たちと子どもたちや高齢者が一緒になって行うことが地域のコミュニティづくりに役立ち、子どもたちにとっても地域の成立ちが理解できます。地域と共にある学校づくりでは、学校では対処できないいじめの問題や児童虐待、不審者情報など色々な課題がありますが、それを地域の人たちと顔を合わせて一緒になって見守り、見える形で情報発信しコミュニティ・スクールの活動が良いのか、地域学校協働活動として地域で情報を共有できるような取り組みを行えば、渡邊委員の意見の見えない部分もやわらいでいき、ある人に相談できたりという関係づくりやネットワークとなれば良いと感じました。

北市長

ありがとうございます。みなさんからご意見を伺いました。既存の計画を大綱として読み替えるということに合意を頂けたと思います。大綱は首長が作るということになっていますが、今の説明の中でこの後の子どもたちの教育について務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

次2点目の布礼別小学校の閉校について、事務局より説明願います。

亀淵教育部長

資料2の布礼別小学校の閉校について、経過としましては布礼別・富丘地区の子どもたちの減少により、学校の児童数が減少し、現状においても欠学年があり、隣接学年による複式授業も厳しい状況で、それに伴い教職員も減少し、令和5年度からは養護教諭、事務職員も配置できなくなる学級数になります。そのことから、地域に対し児童数の推移や教職員の推移などの学校の在り方を検討していただき、地域で検討が進んだところでございます。

このようなことから令和5年度を目処に、これからの予測困難な変化の激しい時代を生き抜く力に必要な、多様な意見を交換し、仲間と協議しながら課題解決を

行う学習環境や学校行事にも制約を受けるなど、保護者、地域の方々に認識していただき、子どもたちの教育環境が不利になることに理解していただきました。本年4月16日に保護者、地域で構成されます「布礼別小学校の未来を考える会」より令和5年3月31日をもって閉校とし、市立東小学校と統合することを希望する要望書を受理いたしました。要望書の内容といたしましては、5点ありました。先程のとおり、令和5年3月31日をもって閉校とし、4月1日から東小学校と統合とすること。2点目に統合にあたっては、市及び市教委は子どもたちと保護者に対する教育的及び経済的支援を継続的に行うことということで、スクールバスの運行、学童保育への優先入所など希望する。3点目に統合時の転校措置による環境が激変することが考えられるため、子どもたちや保護者への不安を考慮し、最大限配慮すること。4点目に東布礼別地区の校区を現在の麓郷小中学校区から布礼別小学校区へ変更すること。地域という部分で統一的な形にしていきたいということ。最後に閉校後の学校施設及び校地内の管理について、地域の環境に障がいを感じることはないよう責任を持って対応するとともに、有効活用については、地域住民と協議を行い、理解の上で行うことの5点が要望内容でした。

今後の対応としましては、5月20日開催しました第5回教育委員会定例会で廃止を決定し、6月10日開会の第2回富良野市議会定例会で教育行政報告していません。翌日の新聞にて掲載されたため市民のみなさんにも周知されたところであります。ハード面の対応としまして、要望書の内容にもありましたスクールバスの協議を行います。併せて現在小学校の受水槽から道路を横断し集落センター、会社、現在市の所有の教員住宅の水道の問題があります。かなりの年数が経過し、道路横断していることから、いつ破裂してもおかしくない状況ですので、新しい井戸の設置あるいは、現在の別な場所からの水の供給を道路向かいの受益者に対し検討しなければなりません。ソフト面としましては、子どもたち及び保護者へのフォローとして廃止が決定しましたので、本年度9月以降から東小学校との交流などの準備をしていきます。また、児童及び保護者の学校見学も行っていきたいと思っています。事務的な部分としましては、設置条例、通学区域規則の変更を行い、令和5年4月1日から市立東小学校との統合に向け準備を進めていきます。

以上です。

北市長

布礼別小学校の閉校については決定されている事項ですので、閉校についてというより、閉校に向けてということでご意見をいただきたいと思います。

菅野委員

私は布礼別小中学校の卒業生でもあり、閉校につきましては3年くらい前から声がでており、現PTAから相談も受けており、とにかく地域に丁寧に自分たちの思いを説明しないとだめだと言ってきました。彼らも地域の色々な団体に対し丁寧に、多い時には2回も説明していました。おおむね反対意見もなく未来を考える会の設立をもって、最後みなさんに説明して閉校に理解をいただき進めた経緯があります。ハード面についての水道については、先日委員会からも話をいただき地域の布礼別農事組合長さんに話をしました。早速、色々な団体に声をかけていただ

き、新しい水を掘るのかということ協議しているの、委員会や市の水道課など説明を求め機会を設けてほしいとのことでした。年内に方向性を決めたいということでした。

北市長

ありがとうございます。他に意見ございますか。

宮本委員

布礼別小学校が布礼別地区からなくなり、東小学校に統合することは先程の話しと関連しますが、布礼別の子どもたちを布礼別の地域で体験させなくてはならない、そのことを地域は一層認識し、課題として乗り越えて行かなければならない、乗り越えていくことが布礼別地域・地区の持続可能な姿となるわけで、学校だけでは完結するのではなく布礼別地域の子どもたちを地域で体験させる取り組みを計画的に考えていくことがますます必要なことだと思えます。それが布礼別の未来につながることだと思えます。

近内教育長

今の宮本委員の意見に関連して、コミュニティ・スクールが今も布礼別小学校にもあります。東小学校にもあります。コミュニティ・スクール委員の布礼別出身の方が、何人かは入っていただき布礼別のことを教育の資源として使っていただきたい。観光トイレについてどう考えていくのか、東小学校の子どもたちが布礼別地区の良い所を知ってもらう教育機会を設けてほしいということコミュニティ・スクール協議会で議論していただくことが、つながっていくことだと思えます。

北市長

この件に関していかがですか。

菅野委員

私も閉校の話し合いの時に保護者のみなさんに言いましたが、布礼別から小学校が移ったからといって子どもがいなくなるわけではないので、ずっと布礼別にいる子どもたち育てていき、地域で育て行くことが大事であることを伝えました。今後この点をどうするのかといことを閉校の話しと一緒に、今のPTAの中でも話し合っていたらいいかと、統合する学校の教育の活動に積極的に参加する意識をもってほしいということも伝えました。

津山委員

1つ気になるのが、閉校後の学校施設をどう利用されるのかが気になります。今まで山部の小学校や東山の閉校になった学校がまだまだ有効に利用されている例がないので、せっかくですので布礼別小学校の跡地を子どもたちの教育だとか、色々なものに使える有効利用をしていただきたいと思えます。

北市長

閉校した校舎の利活用となると、教育委員会や行政も無関係ではないですが、まずは地域で利活用を検討していただきたいと思えます。その後利用がなくなれば校舎敷地を含めて売却とか色々な方法が出てくると思えます。そういった進め方で対応していきたいと思えます。

	<p>その他ご意見ありますか。</p>
渡邊委員	<p>子どもたちの環境が変わってしまうので、特別扱いするわけではないですが目をかけてあげてほしいと思います。</p>
北市長	<p>学校があると運動会や学校行事でそこに地域の方が入ることができ、一緒に集える場がありますが、学校が閉校になると先程の意見にもありましたが、地域が自らの場を作っていく取り組みが必要になると思います。</p>
菅野委員	<p>北市長が言うように学校の利用の仕方についても、地域住民から意見を出すことが大事だと思います。子どもたちを含めて地域で将来のことを問題提起し、しっかり話し合うことが、閉校をきっかけにして気運がもり上ってほしいと思います。自分も当事者ですので、一緒にやって行きたいと思っています。</p>
北市長	<p>これからとなりますが、よろしく願いいたします。布礼別小学校の閉校の関係につきましては、よろしいですか。</p> <p>次にその他の議題になりますが、みなさんから何かありますか。</p>
宮本委員	<p>どこの調査だったが忘れてましたが、今の中学校1年生の平均寿命が100歳を超えるという調査結果がありました。平均寿命100歳の世代が出現し、その後から人生100年という時代が来ることにびっくりしました。先程話しました地域社会の在り方が変わってきて、変えなくてはいけないだろうし、教育の側面からも踏まえながら地域社会を変えていく必要が、富良野市に住んでいる我々や行政や住民の責務だと思いました。</p>
北市長	<p>その頃には人口問題も解決していると思います。我々が100歳となれば後30年くらいですが、人生設計が変わってきます。</p> <p>事務局からその他議題はありますか。</p>
亀淵教育部長	<p>特にありません。</p>
北市長	<p>その他の案件もないので、以上で会議を修了したいと思います。貴重なご意見をいただきありがとうございました。これから行政と教育が連携しながら子どもたちの健やかな成長を願いながら進めて行きたいと思っています。引き続きご尽力をお願いいたします。本日はありがとうございました。</p>
亀淵教育部長	<p>以上を持ちまして、第1回富良野市総合教育会議を終了いたします。</p>

閉会 午後2時18分